

平成27年 今年の10大ニュース

10面につづき

人口50万人突破

▼人口増加の続く臨海部



▲未来を担う元気いっぱいのこどもたち

6/12、江東区の人口が50万人を突破しました。昭和22年に江東区が発足して以来、昭和32年に30万人、平成14年に40万人を突破し、その後も南部地域の開発などに伴い人口は伸び続け、ついに50万人に達しました。人口50万人突破を記念し、6/12に区役所に出生届を出した区民の方に認定証や区の観光キャラクター・コトミちゃんのぬいぐるみなどのお祝いの品を贈りました。なお、本年3月に策定した長期計画(後期)では、目標年次の平成31年の人口をおおむね52万人と推計しており、今後も区の人口は増加し続ける見込みです。

平成27年を振り返って

今年、東京大空襲から70年目を迎えました。3月10日には「平和のつどい」を開催し、あらためて犠牲になられた多くの方の追悼と、平和の尊さを未来に語り継ぐ式典といたしました。この節目の年に、あの東京大空襲により壊滅的被害を受けた本区が、ついに人口50万人を突破したことは、誠に感慨深い思いです。2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、区内に8施設もの競技場が設置されるなど、本区はこれからもさらなる発展を続けます。人口増も続く中での区政運営には、より柔軟な発想が必要です。送迎に便利な分園にお子さんを預け、伸び伸び過ごせる本園とバスでつなぐ「江東湾岸サテライト保育所」は全国初の方式です。小学校の体育館とプール等を、一体的に地域に開放することも全国的に珍しい試みです。今年、本区のブランドコンセプトが「SPORTS&SUPPORTS KOTO City in TOKYO スポーツと人情が熱いまち 江東区」に決定しました。これからもさらに区の魅力を発信し、より良い江東区にするために、熱い情熱と柔軟な発想で区政に取り組んでまいります。



江東区長
山崎 孝明

1月9日(土)・10日(日)・12日(火) 証明書自動交付機を一部休止 (詳細7面)

オリンピック・パラリンピック 開催に向け準備を着々と



▲5年前イベントには、女子バレーボールオリンピックの竹下佳江さん(左)も参加

2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、江東区内に全区市町村で最多となる9競技9会場(オリンピック)、7競技6会場(パラリンピック)が配置されます(12/10現在)。江東区では、本大会の開催を契機として、新たなレガシーを創造し、区が持続的に発展していくため、「江東区オリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画」を策定しました。7/24には大会5年前イベントとして「聞かせて!あなたのオリンピック・パラリンピックこども編」を開催。こどもたちが大会に向けた夢を発表し、タイムカプセルに詰めました。

豊洲シビックセンターオープン



▲区南部地域の拠点として、多くの区民が集い、憩える施設です

9/24、区南部地域の急激な人口増加に対応するため、豊洲駅前に整備を進めてきた豊洲シビックセンターがオープンしました。発展が続く区南部地域における新たな拠点施設として、特別出張所、文化センター、図書館等の機能を備えた複合施設です。建物周囲や壁面だけでなく、8階から12階にかけて階段状に樹木を植え、里山をイメージした豊かな緑化空間を設けています。また4月には、豊洲駅前交通広場の地下に、人口増加に伴う自転車需要に対応するため、新たな自転車駐車をオープンしました。

戦後70年 平和への祈りを新たに

3/10、戦争の悲惨さと平和の尊さを皆さんに改めて訴えるため、東京大空襲被災70周年の節目の式典として「平和のつどい」を開催しました。平和の大切さを次の世代に語り継ぎ、犠牲になられた多くの方の御魂に向けて平和の誓いを重ねました。そのほかにも、戦争の記憶や平和への思いを風化させないために、文化センターや図書館などで学童集団疎開を経験した方のお話や展示会など、さまざまなイベントを開催しました。



▲平和のつどいでは、東京大空襲の犠牲者を追悼しました

◀毎年8/15に行われる旧中川灯籠流し

今号の
主な内容

[2面]1月から一部の事務手続きにマイナンバーが必要に [3面]お正月の特別開館 [5・6面]人事行政の運営状況(概要) [9面]区立小中学校事務職員(非常勤)募集、介護保険認定調査員(非常勤)募集

UD
FONT